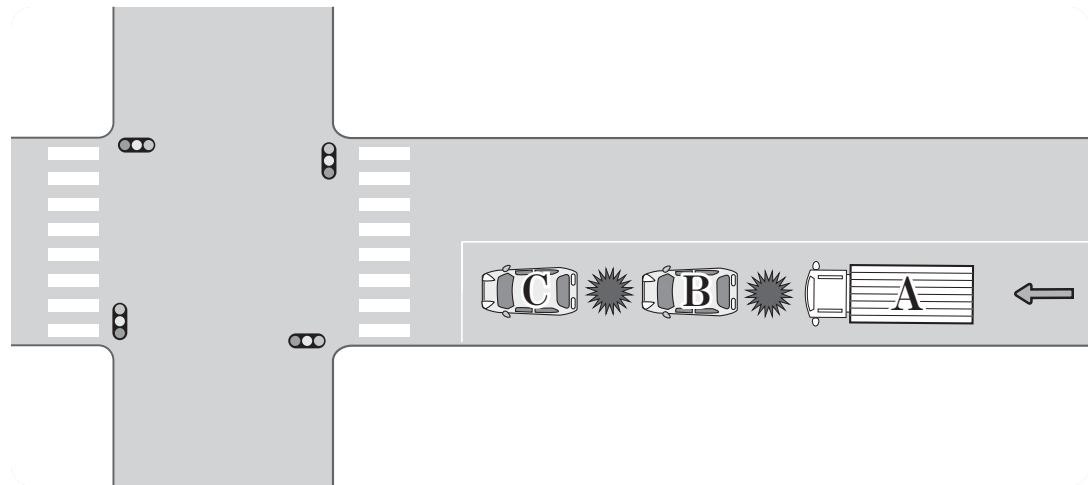


職場における交通安全指導

Part 127

大型貨物車が、黄色信号で減速中の普通乗用車に玉突き追突



■事故の概要

●事故の当事者

当事者A (大型貨物車) : 50歳代、男性
当事者B (普通乗用車) : 30歳代、男性
当事者C (普通乗用車) : 40歳代、男性

●被害状況

A : 車両前部中破 (物損のみ)
B : 頸椎捻挫 (全治1か月) 車両前後部損壊
C : 頸椎捻挫 (全治3週間) 車両後部損壊

●道路状況

信号機のある交差点手前の直線道路

事故状況

Aは、乗務歴が25年のベテランドライバーで、大型貨物自動車を運転し、主に食品等を配送する業務を行っている。

事故の当日は、早朝に会社を出発し、スーパーの開店前には納品を済ませる予定だったが、道路が渋滞していたため、このままだと間に合わない

と焦りながら走行していた。

Aが事故発生場所となった交差点に差し掛かった時、交差点の手前で信号機が黄色に変わったことを認めたが、前車Bは停止しないだろうと思い込み、そのまま追従して進行したところ、停止しようとしていたBに追突し、さらにCに玉突き追突した。

事故の原因

この事故の原因は、スーパーの開店前に納品しなければいけないとの焦りから、冷静さを失い、先急ぎの心理に陥り、前方の安全確認を怠ったことです。

安全指導

追突事故の原因の一つに次のような心理的要因があげられます。

(1) 「急ぎ」や「焦り」が優先して招く追突

先を急いで運転したり、配送の時間に間に合わないという「急ぎ」や「焦り」の状態で行くと注意力が低下する。

(2) 「心配事」や「不安」が招く追突

日常生活の中に心配事や不安なことがあると運転に集中できず、判断力が鈍る。

(3) 「思い込み」や「判断ミス」が招く追突

「前車はこのまま止まることなく左折するだろう」などの思い込みや判断ミスにより、漫然と走行してしまう。

(4) 「慣れ」や「油断」が招く追突

降雨時や降雪時に「これくらいなら大丈夫だろう」と油断したり、「いつも通るルートだから」といった慣れが過信を生む。

(5) 「漫然運転」が招く追突

交通量の閑散とした郊外での運転や高速道路での長時間の単調な運転など、走行中の視点の変化が少ない場合、注意力が低下して単純判断しかできない漫然走行状態に陥る。

追い立てるように前車との車間距離を詰めたり、信号の変わり目に強引に交差点を通過するような運転は、「先急ぎの心理」に陥っているといえます。こうした心理に陥ると、運転に必要な情報を見落とし、自分に都合のよい判断をするようになり、その結果追突事故だけでなく重大事故になる危険性が高くなります。

今回のケースは、渋滞によりAが配送の時間に遅れそうになったため、先急ぎの心理が生まれB車の動静を見誤ったことで発生した追突事故でした。

車を運転する際には、常に余裕をもった運行を

心がけ、納品時間に遅れそうな時は会社を通じて配送先に連絡してもらおうなど、精神的負担を軽くし、先急ぎの心理にブレーキを掛けられるよう心がけましょう。急ぎの運転をしてもわずかな時間短縮しかできず、逆に事故の可能性が高くなることを考えれば得になることはない認識することが大切です。

また、追突事故を防止する方法として、運転中は声を出して直接自分の脳に注意を促すコメントリー運転があります。

脳は目から得た情報を認知し、判断して整理・伝達することから、声による耳からの情報の方がより早く、また、漫然に陥らずに正確に伝わるといわれています。

急いでいる時こそコメントリー運転を実践し、交通事故防止に努めましょう。

事故防止ステッカーの貼付について

交通事故を減少させるための対策の一つとして、運転席ピラーにステッカーを貼り、より一層の注意喚起を目的として、組合員の皆様にステッカーを配付いたしました。

年明けから年度末に向けて例年事故多発の時期でもありますので、ステッカーをご活用いただき、事故防止への取り組みをお願いいたします。

